

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400208
法人名	有限会社 介護支援サービス しるもと
事業所名	グループホーム・サマリヤの家
所在地	上浮穴郡久万高原町上野尻甲623-2
自己評価作成日	平成26年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かな山々に囲まれた久万高原町の野尻地区の人情豊かな地にあり、「自由権の尊重」を基本的に置き、入居者の意思、行動に危険性がない限り干渉せず、自立と本人の望む生活を支援する事に力を入れて取り組んでいます。高齢化とともに重度の利用者さんが多くなっている為、外出支援に力を入れています。認知症になっても住み慣れた地域の中で支えあう家族職員、地域の人達と共に楽しく、自分らしく暮らしています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年6月9日

利用者や職員は、地元の方でもあり地域に知り合いも多く、散歩途中には挨拶したり、立ち話し等される。近所の方から野菜やお花が届くことも多い。公民館で行われる演芸大会の見物や小学校の運動会の応援等に出かけたり、高校や幼稚園とも交流されている。町の夏祭りには職員が参加して、仮装や踊りで毎年賞をいただいている。秋の地方祭では、お神輿や鬼のダイバンが来てくれて一緒に写真を撮る等して、利用者は祭りの雰囲気を楽しまれている。地域のボランティア会からは、クッションや帽子のプレゼントがある。法人は、「開かれた事業所づくり」又、「地域の方と共に取り組む」ことを目指し、取り組みをすすめておられ、今春には、近くにある系列事業所建物横の「地域との交流スペース」をカフェとしてオープンされた。近隣に住むひとり暮らしの方が、「食事の場所ができて、助かった」と話されるそう。又、法人代表者は、「町おこし」の一環として、愛好者が多いオカリナにちなんだお菓子を、松山市の菓子店とコラボして販売することを計画しておられた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 当ホームは開設当初より住み慣れた地域での安心した生活と本人の望む自由な暮らしを支えるために、代表者と管理者が、様々な場面で理念の大切さと実践に向けた取り組みについて話し、ホームの理念を職員全員で作り上げ、共有し、迷った時は理念に戻り、実践に向け努力している。 (外部評価) 開設当初つくった、「やさしい笑顔 よりそう心 主役はお年寄り」という事業所理念を職員はとても大切に思っており、見直しする度に、「この理念が一番いい」との意見でまとまるようだ。法人代表者は、「理念を反芻してから出勤する」よう職員に話しており、職員は、利用者の日々を大切にして、理念の実践に取り組んでおられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会にも加入しており、公民館の行事(公民館まつり)、婦人会、高校の文化祭のバザーや、近所の幼稚園、保育所の行事にも声をかけてもらいできるだけ参加し、地元の方々と交流に努めている。 (外部評価) 利用者や職員は、地元の方でもあり地域に知り合いも多く、散歩途中には挨拶したり、立ち話し等される。近所の方から野菜やお花が届くことも多い。公民館で行われる演芸大会の見物や小学校の運動会の応援等に出かけたり、高校や幼稚園とも交流されている。町の夏祭りには職員が参加して、仮装や踊りで毎年賞をいただいている。秋の地方祭では、お神輿や鬼のダイバンが来てくれて一緒に写真を撮る等して、利用者は祭りの雰囲気を楽しまれている。地域のボランティア会からは、クッションや帽子のプレゼントがある。法人は、「開かれた事業所づくり」又、「地域の方と共に取り組む」ことを目指し、取り組みをすすめておられ、今春には、近くにある系列事業所建物横の「地域との交流スペース」をカフェとしてオープンされた。近隣に住むひとり暮らしの方が、「食事の場所ができて、助かった」と話されるそうだ。又、法人代表者は、「町おこし」の一環として、愛好者が多いオカリナにちなんだお菓子を、松山市の菓子店とコラボして販売することを計画しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 法人全体で、講師を依頼し関係者や地域の方々を対象にした認知症に関する講演会の開催や、軽トラ市に参加し夏祭りを行い近所の方や子供達も集まり交流が出来た。また、地区のミニバレーボール大会にも参加している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) ホームの近況や利用者・職員の異動等の報告や運営推進会議委員にも敬老会や研修にも参加して頂いている。今後、もっといろいろな立場の方に働きかけて出された意見をサービス向上に活かしていく。</p> <p>(外部評価) 会議は、系列の2事業所と合同で開催されており、町役場や社協の方、民生委員、介護相談員、老人会の方とご家族も1～2名参加されている。会議は、利用者の状況や職員の動向、活動や研修報告、外部評価の結果報告等を行い、意見をうかがっておられる。時には、会議に併せて外部講師による「認知症について」の研修を行い、参加者と一緒に学ばれている。敬老会と併せて会議を行った際には、手作りの食事を用意し、利用者を交えての踊り等を見ていただいた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 町が主催する地域ケア会議にできるだけ出席するようにし、勉強させてもらったり情報の共有を図っている。運営推進会議にも必ず出席して頂いておりすべてに協力が得られている。</p> <p>(外部評価) 介護相談員の方の訪問が月2回あり、職員には話さないような利用者の思い等も聞いて、事業所に報告してくださっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は人権侵害にあたることを職員は認識している。身体や言葉の拘束だけでなく、主治医と相談しながら薬での拘束にも気をつけて取り組んでいる。現在1名、ベットの柵を外し、転倒があったため家族と話し合っってベット柵をベットに横に固定させてもらっている。</p> <p>(外部評価) 事業所は建物2階に位置しており、玄関は、1階デイサービスと共有で、日中は出入り自由になっている。現在、昼夜を問わず、夜間は鍵をご自分で開けて気ままに出かける利用者がおられ、2階出入りにセンサーを置き、音で人の出入りがわかるようにしており、早朝の勤務者を増やし、又、夜間は法人代表者がサポートして、ご本人の意志を尊重した対応に努力されている。利用者が外に出かけた際には、高齢でもあり、手をつないで一緒に歩くようにしておられる。日頃は、利用者の行動を制限するような言葉が聞こえると、法人代表者が、その場で言葉の代替えを一緒に考えるようにしておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 代表者・管理者共に虐待についてははっきりした考え、方針を持っており、身体的・精神的すべての虐待を生じさせないように職員のストレス解消を含め、継続的に取り組んでいる。ストレス解消するための研修を全職員が受けている。また、職員同士でお茶を飲みに行ったり親睦を深めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在当ホームに対象者が1名いる。権利擁護に関しては代表がカンファレンスの時話をしているが、今年は権利擁護の研修を全職員が受ける予定になっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には当ホームのケアに関する考え方や取り組み当をはじめ、GH協会から出ている「利用者の権利・倫理綱領」等を契約書と一緒に渡して不安のないよう十分に理解・納得をして頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員が月に2回来訪しており、利用者が外部の人に思いを話せる機会となっている。利用者や家族が、いつでも要望・不満・苦情を表すことができるよう管理者や職員は柔軟な姿勢を持つようにして、当人のその時々思いや希望などを大切に、運営に反映させるように取り組んでいる。 (外部評価) ご家族の来訪時には、個別記録を見てもらいながら日々の状況を報告し、ケアへの意見をうかがっておられる。又、毎月、管理者が個々の様子をお手紙にして、他の書類に同封し、ご家族に送付されている。季刊誌「サマリヤだより」は、外出や行事等の写真にコメントを付けて発行されている。運営推進会議時には、ご家族から「職員が優しいので安心して預けられます」という感想もあった。敬老会等の行事にはご家族も参加いただけるよう案内されている。	事業所では、「ご家族は、意見をなかなか言えない」というご家族の心情を理解されている。いろいろな場面や資料等をもとにして、ご家族の意見や希望を引き出して、今後さらに、ご家族等の声を運営に反映させて、さらに利用しやすい事業所を皆で作りに上げていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のカンファレンスや個人的な意見や提案も検討され、ホーム運営に反映されるよう取り組んでいる。職員の在職率も高い。	
			(外部評価) 職員は、行事の企画や外出先等、意見を出し合い、協力し合って取り組まれている。昨年度は、特に内部研修に力を入れて取り組まれた。法人の職員全員が月1回、半年間、外部講師に協力を得て、「接遇」について勉強し、又、リーダー研修等、段階別研修にも取り組まれた。さらには、希望する外部研修のシフト内参加や育児休暇制度等、職場環境等の整備にも努めておられる。法人代表者は、今後、職員が「自分で考えて行動する『考える介護』」に組みたい」と話しておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 左記の事項が実践できるように取り組んでいる。又資格取得を奨励し取得後は資格手当等を含め、向上心を持って働けるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人研修をはじめすべての職員が、段階に応じた研修(中予ブロック研修)、社内研修をしてもらっている。常勤・非常勤問わず研修を受けるためのバックアップや自主的に勉強しやすい環境作りに取り組んでいる。25年度接遇研修とリーダー研修を社内研修として行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者間で職員研修をさせてもらったり、講師をしてもらったりネットワーク作りや質の向上に取り組んでいる。町内のホームの方にも運営推進会議に参加してもらったり、参加させてもらっている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の状況、不安、要望を把握し安心して暮らせるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や本人の状況など、じっくり話を聴き当ホームではどんな対応ができるのか双方の理解と納得が得られるまで、家族の心情を理解しつつ話し合いをするように努めている。出来る限り柔軟な対応をさせていただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や本人が必要としているものを色々な角度から判断して、適切な支援が受けられるよう、その人に合った必要なサービスを提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に時を過ごす家族のような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) それぞれに置かれた家族の思いに寄り添い共感しながら、家族と共に支える介護を目指し取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) グループホームの近くに自宅がある人がいて、行きたい時いつでも行っている。車椅子で行くことが多いため道中、友達や近所の人と話しかけてきたり、馴染みの美容院に行くことで関係が途切れないよ支援に努めている。	
			(外部評価) 故郷の「面河に行きたい」という利用者の希望を受けて、出かける機会を作られた。ご自宅前で写真を撮ったり、親戚の方にも会うことができ、利用者は大変喜ばれたようだ。3人の娘と道後一泊旅行をされた方もあり、娘さん達は、「いい思い出ができました」と喜ばれたようだ。近くの系列事業所とは、合同でバーベキュー大会を催したり、散歩時に立ち寄る等して行き来しており、気の合う方ができて、訪ねることを楽しみにしている方もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関係を把握し、より良い関わりがもてるよう見守りや声かけを行っている。孤立しがちな方は職員がうまく交わる場を設定したりしながら利用者同士の関係作りの支援を行っている。耳の遠い人にはコミュニケーションをとるために、筆談をしてコミュニケーションを図っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 亡くなったり、長期入院になったりして退所になられても関係を断ち切らないように、必要に応じて相談や支援を行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりの中で職員が本人、一人一人の把握に努めている。本人の意向を第一にして自分で決めることができるような声かけをするよう取り組んでいる。意思疎通の困難な方は家族の希望や本人の表情・様子などから把握し、希望に添えるよう努めている。 (外部評価) 「外に行きたい」や散歩中に「コーヒーが飲みたい」等、利用者の希望があると応じられるように、その日勤務の職員で調整しながら支援されている。センター方式のアセスメント表を用いて個々の思いや意向、暮らし方の希望、できること・できないこと等の把握に努め、介護計画の見直し前に更新して計画につなげておられる。又、日々の個別記録にご本人の言葉や会話を書き込み、情報収集に努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 在宅での生活歴を本人や家族等への聞き取りで把握に努めている。暮らしの把握するために、センター方式を使用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録に個々人の状態(食事、水分、排泄)や会話等、生活状態がわかるように記録している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			本人、ご家族の意向を伺いながら利用者個々の担当者が立案し職員全員で話し合いケアプランを作成している。状況変化があればその都度見直しを行っている。毎月モニタリングにより、一人一人を把握し見直しを行っている。	
			(外部評価)	
			職員は、利用者の希望や意向、言葉を大切に介護計画作成に努めておられる。月1回、すべての職員がすべての利用者の計画を「○△×」にコメントを付けてモニタリングを行い、それをもとにすべての職員で話し合っ3～6ヶ月毎の見直しにつなげておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			ケース記録にケアの実践状況や日々の様子を記録し、気付いたことも記録するようにしている。職員同士も情報を共有しながら、実践や、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			併設のデイサービスのイベントへの参加や、同事業所内でのイベントの参加などの交流を行っている。必要に応じ本人、家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。町内にカフェが出来たので楽しみにしている人もいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			近くのスーパーへの買い物、行きつけの美容院の利用、保育園、幼稚園児との交流等できるだけ豊かな暮らしができるよう、支援している。社協のボランティア保障制度に加入している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) それぞれのかかりつけ医に定期的に月1回往診してもらっている。又、随時の受診の支援や24時間体制で診療して頂ける医院との連携もできている。町外の医療機関への受診も基本的には職員が同行するが、状況によってはご家族の同行をお願いしている。	
			(外部評価) 個々のかかりつけ医に職員が同行して受診しているが、重度化等で、出向いて行くのが困難になってきた場合は、ご家族等の希望も聞きながら、24時間体制の医療機関に往診してもらっている。歯科は、ご本人の状態によって訪問診療を利用されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 普段は介護職員で一人一人の体調管理や病状把握に努めており、急変時は24時間体制でのかかりつけ医や、法人内の看護職員に来てもらい相談したり、医療が必要な場合は訪問看護も利用が出来る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 本人・家族が安心して入院生活を送れるよう支援している。又、早期退院に向けて医療機関と話し合い、情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時、及び必要時にターミナルケアに関する指針を文書や口頭で説明し理解を得ると共にその都度話し合いを持ち、柔軟に対応、支援している。医療との連携による数名の看取り経験があり、いずれも自然死を望む御家族からとても感謝されている。 2名の方の看取りを行った。	
			(外部評価) 終末期の在り方については、職員が、日常何気なくご本人に聞くようにしておられ、現在は、「ここに最期までおりたい」と言われる利用者が数名おられる。又、ほとんどのご家族が、事業所での支援を希望されている。事業所では、この一年間に2名の方の看取りを支援されており、11月に看取った100歳を超える方は、最期に職員の手にはキスをして「ありがとう」と感謝の気持ちを表されたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、カンファレンス等で周知徹底を図っている。消防署の協力を得て、救命救急講習会を毎年1回行っている。回を追うごとに実践力が身に付いているように思うが、いざと言うときに備え安全安心に向けた取り組みを一層強化していきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年1回消防署の指導の下、避難訓練、消火訓練を実施している。自治会にはホームの見取り図と利用者の身体状況を情報提供し、いざというとき駆けつけてもらえるようお願いしている。ホームの隣の職員の自宅とも、すぐ連絡できるようにしている。自動火災通報装置・スプリンクラーを設置している。	
			(外部評価) 今冬、消防署の協力を得て、夜間の火災を想定した避難訓練が行われた。職員が利用者役になり、避難の方法を体験された。自主的な避難訓練も年1回行っている。事業所近くに住む職員は、ボタン一つで連絡できるようになっており、法人代表者や複数の近くに住む法人職員、又、近隣の方には、「いざという時には、一番に駆けつける」と言っている。水や食料品を3日分程備蓄されている。さらに、今後は、利用者や職員の安心に向け、家具の固定等、地震時の対策についても取り組まれてほしい。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 法人の理念である「自由と尊厳」を接遇態度において実施した言葉かけに努めている。	
			(外部評価) 調査訪問日の昼食の準備時、職員は、利用者「身体を後ろにずらします」「クッションを挟みます」等、一つひとつ介助することを伝えながらかわっておられた。職員は、利用者が自分でできることを見極め、できないことを支援するように努めておられ、居間等の家具の配置は、移動や移乗の際に、利用者のご自分の力を活かせるような配置に気を付けておられる。入浴時は、利用者全員、同性で支援されている。10時と3時のお茶の時間は、コーヒーや紅茶等、数種類の飲物からお好きなものを選んでもらい、お菓子を添えて楽しまれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人の持てる力に合わせて、入浴時、衣類の選択をしてもらったり、買い物時の選択、おやつ時の飲み物の選択等、日常生活の中で自己決定できるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人の体調、ペースに合わせた生活を優先したケアに努めているが、重度化に伴い状況によっては本人の希望に添えない時間が出てきている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 1人1人の好みを優先しその人らしいおしゃれができるよう支援している。毛染めも適時に行くようにし、オシャレが出来る湯にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備やあとかたづけはその時々利用者さんの状態に合わせて臨機応変に対応しているが、出来る人が少なくなっている。一緒に買い物時に希望をきいたり、食事が楽しめるよう努めている。	
			(外部評価) 毎日、食材の買い出しに行っておられ、献立は一緒に買い物に行った利用者の希望を聞いたり、その日にある食材をみながら決めておられる。食事については味付けとともに彩りや盛り付け方等見た目も大切にされている。5月は、近所やご家族からいただいた筍やふき等の旬の野菜の煮物が多く食卓に上る。個々の誕生日には、ご本人のお好きなものをお祝い用の器に盛った「誕生日膳」と手作りケーキでお祝いされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量を把握し、1人1人の状態や習慣に応じた支援ができるよう努めている。また、糖尿病の利用者さんには麦ごはんにしたり、味付けの工夫をいたり、病気のことを考慮に入れ調理や配膳に気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声かけを行い、自分で行えない利用者さんは職員が手伝っている。チェック表に記入し確認している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、利用者のサインを見逃さないよう努めている。随時トイレ誘導し、経済的負担も減らせるよう工夫している。テナーパンツでの対応で不快感の排除、自己負担である排泄用品の出費の軽減に努めている。	
			(外部評価) 利用者個々の排泄パターンに沿い、又、立ち上がるとする仕草や「アーアー」と声を出す等のサインをキャッチして、声掛けや誘導して、トイレで排泄できるよう支援されている。利用者によっては、伸縮性のある布パンツにパットを使用して、特に夏場の蒸れに配慮されている。便器横のL字型の手すりに沿って、トイレ入り口から便器近くまで手すりが取り付けであった。職員は、トイレまでの車イスの自走を見守り、トイレ内の動作もご本人の力を活かす支援に努めておられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物で薬物に頼らず排便を促したり、水分補給等いろいろ工夫し、ヨーグルトや牛乳を飲んでもらうことで自然排便に向けて取り組んでいるが、無理な場合はかかりつけ医と相談しながら下剤の調整を行うなど、支援に努めている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1人1人の体調に合わせて入浴している。回数も特に決まりはなく、快く楽しめる入浴を心がけている。バラ風呂にしてみたり、入浴剤も利用者さんに決めてもらっている。	
			(外部評価) 毎日入浴の準備をして、利用者の希望に応じて、現在隔日に入浴している方もおられる。夕食後も、7:30までは希望があると見守りで支援されている。浴室内にナースコールが設置されており、重度の利用者の介助等、必要があれば職員を呼び、2名で介助して利用者が湯船に温まれるよう支援されている。冬には、柚子湯を楽しまれることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の体調や希望に合わせて安心して休めるように支援している。リビングで職員と一緒にテレビを見たりお茶を飲んだりして眠くなったら居室に帰る方がいたり、自由にしてもらっている。冬場は湯たんぽを使用し、安眠につなげている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	服薬説明書を個別に管理し、全職員がいつでも確認できるようにしている。飲み忘れや誤配がないように服薬管理し、又症状の変化にすぐ気付けるよう観察を怠らないよう努めている。薬が変更したときは職員にも周知し、家族に連絡し知らせている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	本人のできることを依頼したり、体操、買い物、ドライブ、外食等楽しみごとや気分転換の支援に努めている。また、四季折々に花の見学に出かけたり、家に帰るなど気晴らしの支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	天気のいい日は毎日出かける利用者さんがいる。買い物も利用者さんと出かけるようにしたり、観劇、墓参り、寺参り等行きたいところに出かけられるよう支援している。	
			(外部評価)		気候や利用者の体調をみながら、近場をドライブして季節の花をみたり、計画を立て、松山の石手寺や椿神社、又、動物園や五色浜等にも出かけておられる。高齢と重度化で遠出が困難な利用者もおられるが、状態等みながら戸外に連れ出す支援に努めておられる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	自分でお小遣いを管理している利用者さんもいて、自分の好きなものや、欲しいものを職員と一緒に買いに行っている。支払いできる方はして頂き、個々の状況に応じて、支援している。カフェに来て自分で支払いをしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	当然のこととして対応しているが、できる利用者さんは少なくなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングが天窓になっており、柔らかい光に包まれているので利用者、来訪者もリラックスできていると思う。踊り場にソファを置いたり利用者それぞれが好きな場所でくつろげる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 事業所の出入り口前の踊り場には、ソファが置かれ、職員が山から採ってきた花を活けておられた。居間には、天窓が2ヶ所あり、明るい空間になっている。食卓テーブルやソファ、座卓、テレビ等が配置され、窓からは、近くの山々の緑を眺めることができる。利用者が「山に雪が積もるときれいですよ」と話して下さった。日中、利用者は居間で過ごされることが多いが、現在、高齢で重度の方が多く、利用者の様子をみながら居室で休んでいただくようにされている。調査訪問日の午後には、法人代表者が焼いたシフォンケーキでお茶を楽しまれている様子うかがえた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室で1人で過ごされたり、リビングで話したりそれぞれ自由に過ごされている。静かに過ごしたい利用者さんは一人で好きな音楽を聴いたり、歌を口ずさみながら過ごしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者さんの部屋は、利用者さんの状態に応じ洋室、和室を利用できるようにしている。タンス、テレビ、仏壇、小物など本人の使い慣れたものを持ち込んでもらうようにしている。家族の写真や誕生日の色紙など安心して過ごせる場所になっている。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッドとクローゼットを備えておられる。「這う力」のある利用者の居室は、畳に布団を敷いておられた。ご自宅から仏壇を持ち込んでいる方や、テレビを置いている居室も見られた。職員が持ち寄ったカレンダーを各居室にかけており、魚釣りがお好きな利用者の居室には、魚拓の絵の付いたカレンダーが掛けられていた。時計のある居室も多く見られた。温度計を各居室に掛けて、職員が室温調節をされている。調査訪問時、各居室には、一輪挿しに花が飾られており、窓から自然の心地よい風が入っていた。居室で本を読む利用者もおられ、職員にも貸してくれるようだ。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 廊下やトイレに手すりを付け、自分の力で立位するようしてもらっている。玄関は座って靴が履けるようになっており、自分のできることやわかることは極力見守りで支援するよう努めている。</p>	